

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ アイザワ エミコ 氏 名 相澤 恵美子	職 名 教授 人間学部 健康栄養学科	取得学位 博士(医学) (大学名) 東北大学 (取得年月) 2012年 3月
-----------------------------	-----------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
教育内容・方法の工夫 1. 食育活動としての学生への実践的指導:親子クッキング開催による幼児への食育教育の実際	2024	腸活をテーマにした親子クッキング企画を開催する為、ゼミでの企画立案及び献立試作を行い成功に向けた取り組みを行っている。
2. 地域支援講座での栄養教育	2022.8-11	健康寿命を延ばす食事という内容で2日間にわたり地域貢献で高齢者への講義を行った。また依頼を受けて北海道標津町での栄養講演も実施した。
3. 障害児への食事のテーマ部分の執筆	2024.3	精神障害・身体障害児への栄養について、管理栄養士養成施設で使用する教科書について、これまでの経歴を生かしてまとめた。
4. 栄養アセスメントの充実	2020-2024	バイオマーカー、インドール、および腸内細菌測定によって、腸内細菌の変化及び腸内環境への影響について分析を行い理解を深めた。2023年度はさらに脳活動の分析を加味して、data 分析能力を高める教育の展開を試みている。
5. 腸内環境測定及び腸内細菌分析を取り入れた食品摂取による影響の分析教育の導入	2024	食品素材に着目し、先行文献からその機能を理解し、宿主ごとに異なる腸内細菌構成に違いが結果にどう反映するのか探求心を高める取り組み
6. エクオール産生菌測定による女性の栄養摂取について検討	2018-2024	女子大である事から、女性に多い疾患や症状に、栄養がどうかかわるか理解を深める取り組み。更年期障害、ストレス関連疾患、摂食障害等
7. FODMAP 食の導入の検討	2018-2024	高FODMAP食とは発酵性で、かつ吸収されにくい短鎖炭水化物群の食品で過敏性腸症候群の患者に有効とされているが、これらの食事療法の理

8. 栄養指導における DX(デジタルトランスフォーメーション)の導入	2020	解を深めた。 スマートフォンを利用した食事摂取状況の把握、従来の食事摂取頻度調査法との比較において、栄養指導のツールとしての妥当性に関する検討
9. ストレスマーカーCortisol 測定によるメンタルヘルスと栄養に関する探究	2021	Cortisol 測定器を導入し、メンタルヘルスに関するマーカーを利用した理解の向上と栄養学的なアプローチについての探求の実施
10. sIgA 測定を利用した免疫状態の理解と栄養との関連分析の推進	2023	免疫に関する評価方法の実施と栄養摂取との関連分析の方法を具体化
11.脳活動と栄養との関連の理解の推進	2024	脳活動に栄養成分がどうかかわっているのか、リアルタイムに評価し理解を深める教育が必要である
12.美容栄養教育の導入		単に美しさを追求するものではなく、体内でのフリーラジカル、活性酸素、抗酸化物質、短鎖脂肪酸の役割を理解し、結果として皮膚のコンディションに繋がるメカニズムを理解し、栄養成分との関係を深める

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
著書 機能性消化管障害 「脳—腸—腸内細菌」相関	単著	2023/10	臨床栄養	相澤恵美子		P. 29-42
Eicosapentaenoic Acid Intake Associated with Reduced Risk of Posttraumatic Stress Disorder After the Great East Japan Earthquake and Tsunami	共著	2019/5	IntecOpen Psychological Trauma	<u>Emiko</u> <u>Aizawa</u> , Miho Ota, Ikki Ishida, Norie Koga, Kotaro Hattori, Shinji Sato, Takashi Asada and Hiroshi		P. 47-52

論文 <i>Bifidobacterium</i> and <i>Lactobacillus</i> Counts in the Gut Microbiota of Patients with Bipolar Disorder and Healthy Controls.	共著	2019/1	Frontiers in psychiatry 9:730	Kunugi. <u>Aizawa E.</u> , Tsuji H, Asahara T, Takahashi T, Teraishi T, Yoshida S, Koga N, Hattori K, Ota M, Kunugi H.	
Altered polyunsaturated fatty acid levels in relation to proinflammatory cytokines, FADS genotype and dietary habits in bipolar disorder	共著	2019/6	Translational Psychiatry 9	Norie Koga, Jun Ogura, Fuyuko Yoshida , Kotaro Hattori, Hiroaki Hori, <u>Emiko</u> <u>Aizawa</u> , Ikki Ishida, Hiroshi Kunugi	P. 1-8
Gut permeability and its clinical relevance in schizophrenia.	共著	2022	Neuropsychopharmacol Rep	Ishida I, Ogura J, Aizawa E, Ota M, Hidese S, Yomogida Y, Matsuo J, Yoshida S, Kunugi H.	P. 208-216
Altered cognitive function of prefrontal cortex during error feedback in patients with irritable bowel	共著	2012/11	Gastroenterology	<u>Aizawa E.</u> Sato Y,	

syndrome, based on FMRI and dynamic causal modeling				Kochiyama T, Saito N, Izumiyama M, Morishita J, Kanazawa M, Shima K, Mushiake H, Hongo M, Fukudo S.	P.70-76
Possible association of Bifidobacterium and Lactobacillus in the gut microbiota of patients with major depressive disorder	共著	2016/9	Journal of affective disorder 15; 202	Aizawa E, Tsuji H, Asahara T, Takahashi T, Teraishi T, Yoshida S, Koga N, Hattori K, Ota M, Kunugi H.	P. 1188-1198
学会発表 ケストース摂取によるストレス、消化器症状及び腸内環境への影響	単著	2023/9	栄養改善学会	相澤恵美子	
A RANDOMIZED CONTROLLED TRIAL EVALUATING THE EFFECT OF ENVIRONMENTAL RICHNESS ON GASTROINTESTINAL SYMPTOMS, SALIVARY CORTISOL, AND GUT MICROBIOTA IN EARLY CHILDHOOD	共著	2024/5	Digestive Disease Week® 2024(DDW2024)	Chikako Shibata, Tomohiko Muratsubaki, Suguru Shibata, Emiko Aizawa, Satoshi Watanabe, Motoyori Kanazawa, Shin Fukudo	P. 81-87  P. 254-257

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
国際学会 Major depressive disorder and initial insulin hyposecretion in oral glucose tolerance test.	2016/7/3~5	30th The international college of neuropsychopharmacology (CINP) Soul, Korea. COEX
Bifidobacterium and Lactobacillus Counts in the Gut Microbiota of Patients with Bipolar Disorder and Healthy Controls.	2019/6	World Federation of the Societies of Biological Psychiatry 2019,
国内学会・シンポジスト Body からのシグナルは直感的意思決定にどう影響するか？過敏性腸症候群が示す神経基盤	2015/10	第 22 回日本行動医学会学術総会 シンポジスト
腸内フローラと鬱病	2018/11	第 14 回食品免疫学会「腸内細菌と脳・神経系との関わり」
腸内環境と気分障害	2019/7	第 16 回日本うつ病学会総会 「栄養と運動と気分障害」
うつ病と腸内細菌—腸-脳相関 学会発表 ケストース摂取によるストレス、消化器症状及び腸内環境への影響	2021/7	第 18 回日本うつ病学会総会 「腸-脳相関」

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
心身医学会 日本免疫学会 日本免疫消化器学会 腸内細菌学会 臨床栄養協会		平成 20 年 4 月 平成 29 年 5 月 平成 30 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 2 年 4 月

うつ病学会 日本栄養士会 日本栄養食糧学会 日本栄養改善学会		令和3年4月 令和3年4月 令和2年4月 令和5年4月
---	--	--------------------------------------

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本学術振興会科学研究費	2013-2016	基盤研究(C)	過敏性腸症候群の意思決定とその神経基盤 (研究代表者)	5,070,000
日本学術振興会科学研究費	2017-2019	基盤研究(C)	大鬱病における腸内細菌叢と炎症免疫及び腸管壁浸漏症候群との関係解明 (研究代表者)	4,810,000
日本学術振興会科学研究費	2021-2023	基盤研究(C)	幼児のストレスに及ぼす自然保育の生理学的効果に関する研究 (研究分担者)	4,160,000
日本学術振興会科学研究費	2022-2024	基盤研究(C)	腸内細菌叢 Dysbiosis 改善のための妊娠適齢期女性への栄養マネジメントの構築 (研究代表者)	4,290,000

### 3. 特記事項

--